

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 4月13日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200291
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター国分 グループホームニチイのほほえみ
所在地	鹿児島県剣之字都町9-6 (電話) 0995-48-6623
自己評価作成日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年3月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

- 1、利用者様とスタッフが家族のような雰囲気です。
- 2、家族が気兼ねなく、いつでも訪問出来る雰囲気作り。
- 3、常に笑いにあふれる施設づくり。
- 4、地域の方々との交流づくり。
- 5、利用者様の好む食事の提供。
- 6、幹線道路より離れている為、静かで、交通事故等の危険性が低い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

○事業所は幹線道路沿いに位置しているが、住宅地や田畑も多く、大変静かな環境にある。また、近隣には、スーパーやドラッグストア、学校、医療センター等があり利便性が高い。同敷地内には居宅介護支援事業所とデイサービスがあり、隣接して他法人の小規模多機能ホームもあり、運営推進会議や災害訓練時に交流するなど連携を図っている。

○「認知症であっても、その人らしさをいつまでも、お一人おひとりの心に寄り添いながら、まごころをこめて安心のサポートをお約束します」を理念に掲げ、玄関や事務所に掲示している。また、毎月のミーティング時に唱和を行うほか、理念が実践につながっているか振り返りを行っている。

○身体拘束廃止委員会を設置し、毎月のミーティング時に、職員の言葉遣いが適切になされているかや、拘束、虐待の有無等を確認している。自由な生活を支援するため、行動を制限させることのないよう、日々見守りを徹底させている。また、近隣事業所や民生委員、ドラッグストア等にも理解を求め、見守りや声かけ、連絡を頂けるような関係を築いている。

○災害時に広く協力が得られるよう、同敷地内の事業所以外にも、隣接する他法人の小規模多機能ホームや自治会長、民生委員等にも訓練に参加して頂くなど連携を図り、緊急時に備えている。また、災害時にすぐに持ち出せるよう、備蓄や備品、非常持ち出し袋は玄関近くに備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、業務ミーティングの中での唱和を行っている。理念の唱和をすることでどのようなケアをしていくのか、どのように対応していかなければいけないのか、日課を通じ、実践につなげていく。	理念を玄関、事務所に掲示し、申し送り時やミーティング時に唱和することで意識付けを図っている。特に「その人らしさ」を大切にしたいと考え、定期的に振り返る機会を設け、利用者一人ひとりに寄り添いながら日々の生活を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に出席して頂くと同時に、防火訓練に参加をさせて頂いて、お互いのリスクの軽減に努めている。	運営推進会議に自治会長や民生委員等が参加されるため、地域行事を把握しやすい。近隣にある他法人の小規模多機能ホームとは、消防訓練や運営推進会議に参加してもらうなど交流があり、高校生のボランティアの受け入れや近所の方に野菜のお裾わけを頂くこともある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や防火訓練に参加をして頂き、その中で、認知症の施設であること、利用者への緊急時の対応法を説明をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、その中で、利用者の状況、事故の発生状況、行事を報告している。行政・自治会・民生委員・近隣施設スタッフ・家族に、参加して頂き、地域の情報を入手し、助言や意見を頂いている。	会議には家族や自治会長、行政職員、他法人の小規模多機能ホーム職員等が参加され、活動内容の報告や利用者状況、ヒヤリハット等について話し合われている。また、行政からは介護保険改正についての説明や研修案内等の情報を頂くなど、活発な意見交換がなされサービス向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で意見を頂いている。本庁においても、施設のパフレットを置かせて頂いている。	各種書類の提出や相談事がある時、また事故報告のために出向くなどして意見を頂いている。行政主催の研修会や福祉祭りへの参加、グループホーム連絡協議会主催の研修会で行政職員と意見交換を図るなど、日頃より利用者の暮らしぶりや事業所の実情を伝えるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月、身体拘束委員会を実施し、身体拘束の無いように、全スタッフで、情報共有を行っている。業務ミーティング内の研修で、身体拘束についての研修を行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月のミーティング時に合わせて、言葉による拘束を含む行動制限の有無の確認や拘束のないケアについての勉強会を実施している。利用者の自由な暮らしを支援するため、職員は見守りを徹底させており、万一利用者が外出してしまった時のことも想定して、民生委員や近隣施設にも予め照会させて頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務ミーティング内で、マニュアルに沿った研修を行っている。声掛けやケアの方法で気になることは、お互いに注意しあっている。高齢者虐待防止のスローガンを事務所内に掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	業務ミーティング内で、研修を行い、権利擁護に関する制度に関する知識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や改定があった際には、説明を行い、同意を頂く様に行っている。その中で、不安や疑問がないか聞き取りを行っている。会社独自のアンケートを年一回実施し、確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置を行い、運営推進会議内での聞き取り、面会時の聞き取りを行っている。その中で出た意見は、全スタッフに共有し、反映できるようにしている。	入居時のアセスメント聴取の際に、本人や家族からこれまでの生活歴を詳しく聞きとり、入居後もケアプランの更新に合わせて意見や要望を確認している。また、家族には年1回、満足度調査のアンケートをとり、口頭では得られにくい意見を書面にて確認しており、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務ミーティング内で、カンファレンスや業務改善に向けての話し合いを行い、支援方法などについて話し合っている。意見があるときには、その都度話し合いを行っている。	職員間の何気ない会話の時や、申し送り、ミーティング時に意見を聞いており、支援方法や業務改善の提案など多くの意見が出されている。事業所としては資格取得や研修会への参加、休みの希望など、職員が働きやすいよう可能な限り支援している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	役割分担を行い、全スタッフが責任を持って仕事ができる様に行っている。研修を通し、ケアの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できている。その研修の後は、業務ミーティング内で伝達し、出席できなかったスタッフが学習できるようにしている。内部研修で、様々な研修を行い、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連合会に参加し、会合や勉強会に参加している。近隣の施設と連携をとり、運営推進会議や避難訓練に参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活情報を基に、健康で、生きがいのある生活を送っていただけるか本人や家族と話し合いを行っている。環境の変化に不安がある場合は、声掛けを密に行い、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、契約の説明を行う際に、不安に思っていることが無いか、聞き取りを行いスタッフと家族が、本人について共通認識を持てるようにしている。入居後、面会以外でも連絡を密に行い、信頼関係を気付けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った状況を伺い優先すべき事項をサービスとして提供する。このとき他のサービスが使えるようにし、医療などの専門的サービスに関しては連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体調や意思を尊重し、無理の無い範囲で、食器拭きや洗濯物を畳んで頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態が変化した時や介護方法を統一のため家族に連絡して話し合いを行い、家族の希望を聞き、入居者様の安心安全を第一として家族にも協力や意見を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が面会に来られた際は、入居者様と過ごす時間を大切にさせて頂けるようになるべく居室にて過ごして頂いている。	入居時に把握した生活歴等アセスメント情報を参考に、電話や手紙の取り次ぎを支援している。個別に希望する馴染みの場所へは、主に家族に支援をお願いしている。家族等の来所時は居室でゆっくり過ごして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃関係のいい利用者様同士は食堂での席を近くにしたりしている。身体状況等(例えば難聴)で座席の変更も随時行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者のご家族が、退所後も利用者様の状態報告やホームでの楽しい思い出話などをされていた。家族からの問い合わせや相談があれば誠意をもって対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの習慣や家族から生活歴を聞き出し支援をしている。意向をはっきりと確認が出来ない入居者様もいるがご本人の理解できるコミュニケーションの方法でしっかり説明を行う事を大事にしている。	利用者の思いを本人や家族から聞きとり、思いを上手く伝えられない場合は、これまでの生活歴や関係者の意見も参考にしながら把握している。また、家族の面会時には、なるべく話をする事で、本人の理解を深めるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴を伺っている。また了解を得て、サービス利用のあった施設や前任の介護支援専門員より注意する事や疾病、生活歴等を聞き取り、把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いせず出来る事を声かけを行い日常の作業に参加して頂くようにしている。症状も同じ所にとどまっていらないので新しい情報はスタッフ全員で共有し支援を行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時に担当者会議を開催している。モニタリングは随時行っている。また身体状況の変化等必要に応じて家族・スタッフ間で連携を取りながら細やかな支援の方法について話し合い実践している。	本人、家族の意向を基に毎月のカンファレンスやモニタリング、支援シートを作成し、主治医の意見も考慮した上でケアプランを作成している。また、身体状況に変化がみられた際には、随時カンファレンスを行い、現状に即したケアプランに作り直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書を基に介護スタッフが支援シートを作成する。また、管理日誌や介護記録で情報の共有化を図っている。月1回の業務ミーティングの中でBS法を用いて話し合いを行っている。又、個別に数名ずつのカンファレンスを行い、全員で情報を周知し支援に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスは勿論の事、朝の申し送りでも問題に気付いたスタッフから問題提起があり、勤務しているスタッフ間で話し合いを行っている。計画書や支援シートに反映しない細かい検討もある。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事やクラブに依頼をするがニーズがマッチしない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診が6名。家族対応で病院受診される方が3名である。ホームでの変化やバイタル・体重の変化等情報を共有し適切な指示が頂けるようにしている。ご家族からの要望なども往診時に主治医に報告を行っている。ご家族への報告も行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を、家族と職員が協力して受診を支援している。受診時には日頃の身体状況がわかる書面を医師に確認して頂き、また、医師からは検査報告書を受け取るなどして情報交換を行っている。把握した内容は介護記録や支援経過に記録し、申し送り時等に確認し共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師はいないが、通所の看護師に報告や確認をするなど臨機応変の対応をしている。主治医や訪問看護スタッフとの連携や家族に報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はスタッフが随時面会に行き、主治医・担当看護師などにも面談し状況を把握し報告・連絡・相談を主治医・家族と密に行い連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期をどのようにするかは担当者会議開催時に家族や入居者様に具体的な対策方法を説明し承諾された旨を計画書にて署名・押印をいただく。事業所で出来る事をスタッフで共有し体制を整えている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意をもらい、入居後も状態の変化やケアプランの更新に合わせて確認するなど、本人や家族の変化する思いに対応している。定期的な訪問診療や訪問看護による連携が図られ、また家族の協力も得られたことで、これまでに3例ほどの看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法は外部研修で行っている。また緊急連絡網を掲示している。業務ミーティングの中でマニュアルに沿って研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間それぞれを想定した避難訓練を年2回以上行っている。同敷地内の通所事業所と合同で行い協力体制を取っている。地域の方や近隣施設の方にも声かけを行い参加して頂いている。	夜間想定を含む災害訓練を、隣接するデイサービスや他法人の小規模多機能ホームと合同で実施し、自治会長や民生委員の参加も得られた。その他、消防設備の点検や災害時の対応について自主的に学ぶ機会を設けている。備蓄については、飲料水や食料を備え、消費期限が一目でわかるよう一覧表を作成し管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや話しかける際には入居者様の尊厳に配慮をしスタッフ一人ひとりが注意を払えるようにしている。また声かけが不足したり入居者様の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけになる事があるのでその都度注意し合い業務ミーティングの中で勉強会を行っている。	接遇やプライバシーに関する研修を年間計画に組み込み、定期的実施している。トイレ誘導時はさり気なく声をかけたり、日中などポータブルトイレを使わない時は、目隠しのカバーをかけておくなどの配慮を実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不穏な行動がみられた時には入居者様の話を聞き、個々に合った説明を行い納得して頂いている。また事務所や居室で不満や不安を聞き出せる環境を作っている。只、最近は介護度が高くなり自分の思いや希望を表現出来る人は減っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の行きたい場所（例えば外）、食べたいもの等、入居者様の生活のリズムや思いを考慮し希望に添えるような支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	普段着と寝間着の区別をし支援を行っている。衣類の選択が出来る入居者様は、入浴時の着替えや外出時の衣類を選んで頂くようにしている。髭剃り、散髪を定期的実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやおぼん拭きを出来る範囲で手伝いを頂いている。食事は、スタッフとともに会話を楽しみながらとっている。	メニューは当日、利用者の食べたいものを参考にするなどしている。季節が感じられる行事食の提供や誕生会には洋菓子店にケーキを発注するなど、食べる楽しみを大切にしている。また、菜園の野菜を食材として利用したり、食事の準備を一緒に取り組むなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・体重の確認を行い無理強いする事がないように個々のタイミングを見ながら摂取して頂いている。入居者のペースで食べて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎回行っている。舌苔はスタッフが介助を行いとるようにしている。入居者の能力に応じて声かけを行い、ジェスチャーを用いた説明を行い出来るだけ入居者様にして頂く。仕上げ磨きをスタッフがやっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のある方はトイレまで誘導を行い、尿意のない方・訴える事が出来ない方は排泄パターンを把握し誘導を個別に行っている。失禁の少ない方は日中はリハビリパンツで、夜間のみオムツを使用するなどその人にあった支援を行っている。	排泄チェック表を参考にしながら、トイレ誘導を行い、排泄の状況を介護記録に記載し情報の共有を図っている。日中はリハビリパンツの方もトイレでの排泄を基本とし、夜間は容量の大きなパットを使用するなど変化を持たせることで、補助具の使用頻度を減らす工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は個別に把握し排便の有無を確認している。便秘薬は主治医の指示で個別の便秘のリズムで服薬介助している。また乳製品や乳酸菌飲料、食物繊維を取り便秘にならないように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	火曜から日曜日の午後は入浴可能であり、一番風呂が好きな方は声かけを行うようにしている。入浴は個別であり拒否された際は声かけの工夫をしたり、時間をおいて声かけを行っている。現在入浴は週2回を目途にしている。	午後からの入浴とし、衛生面からも少なくとも週2回程度は入浴して頂きたいと考え支援している。加齢による体力の低下から、必要に応じて職員二人体制で介助を行っている。入浴後は軟膏塗布による皮膚ケアや水分摂取にも気を配り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	食後に声かけを行い居室で休ん で頂いている。また横になるの を嫌う方には無理のない姿勢で 休息を取って頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	誤薬のないように一包化をお願い している。またスタッフでダブル チェックを準備の段階、服薬介 助の段階で行っている。かねて の状況の把握をしっかり行い副 作用に気をつけ観察している。 (血圧関係、睡眠導入薬、血糖 関係、下剤など)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	畑で花や野菜づくりをしたり 歌、囲碁、将棋、ボールを使 ったゲーム、日光浴など入居者 様の得意なレクリエーションや 行事を実施している。季節ごと に行事を計画・実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	気候に合わせて外へ散歩の機 会を作っているが多くはない。 ご家族の協力を得て外出・外泊 する事もある。今後も可能な限 り計画していきたい。	加齢による体力低下や2ヵ月前 に本部に外出希望を提出する必 要があるため、自由に外出する ことは難しいが、中庭でお茶を 飲んだり、敷地内の散歩や外気 浴を行うなど、限られた中では あるが、屋外で過ごせる時間 を作っている。受診や買い物、 個々に希望する外出先には、 家族が支援しており、自由に 外出してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様は金銭を所持していない。必要なものはご家族に購入して頂いている。入居者様から「お金を持ってない」と言われる事があるが、その都度説明を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や親族にはいつでも電話の取り次ぎは可能である事は説明している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度や湿度は随時確認を行っている。廊下の壁には入居者様の写真を掲示しており、運動をする時等写真を見ながら会話を楽しんでいる。個々の居室からの景色を見て過ごす時間も作っている。</p>	<p>フロア内は明るく、中庭のウッドデッキに自由に出られる造りになっており、パラソルを立てお茶を楽しむなどして過ごしている。利用者と職員と一緒に作った季節の作品の掲示され、また、こまめな換気、わかりやすいトイレの案内など気配りがなされている。トイレは便座の両側に手すり取り付けられている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでは座席は指定せず、好きな所に座って頂くことを基本にしているがトラブルになる事があるのでスタッフが気を付けて誘導を行っている。また、気の合う入居者様同士でもいつも一緒にいることで関係性が崩れてしまう事があるので気を付ける。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や寝具はもちろんのこと、置物やぬいぐるみ・写真など持ち込んで頂いている。</p>	<p>エアコンとクローゼットが備えつられ、ベッドは無償貸与で利用することができる。自宅からテレビや写真、ぬいぐるみや食器など、馴染みの品が自由に持ち込まれ、個々の動線にも配慮した室内環境としている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所や居室が分かるように表示してある。安全面ではバリアフリーになっており、手すりを配置してあるので動きやすい環境になっている。転倒リスクの高い方の居室にはマットを敷いて対応している。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない